

◎今週の御言葉「内なる人」

(コリント人への手紙第二４章７節～１８節)

「ですから、私たちは勇気を失いませぬ。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています」
(16) 仲森文穩

○今日は、高齢者の日祝福礼拝です。統計によると１００歳以上の方が１万人を超えたのは１９９８年のこと、それが２０２１年９月では８万６５１０名と過去最高になっています。そのうち８８％が女性で、最高年齢は大阪在住の１１５歳の女性だそうです。ますますのご長寿を祈りたく思います。

○コリント人への手紙第二４章１６節に「ですから、私たちは勇気を失いませぬ。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています」とあります。外なる人は衰え、足も腰も痛み、目もかすむ。でも内なる人はそんな私を日々新たにしてくれる。イザヤ書４０章３１節には「主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかけて上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れない」と記されています。これが「内なる人」です。目に見えないもの、日々新たな「内なる人」としての自分に目を向けることこそ、大事なのではないのでしょうか。

ヘルマン・ヘッセは「年をとるということは若いことと同じように美しく、神聖な使命だ」と言いました。私たちは単に年をとるのではなくて、神聖な使命を帯びてそうになっていく、というのです。ご高齢の方が「私のような者は生きていたってしょうがない」と下を向かれるのは、若い人にとって聞いていて辛いものです。誰もみな明るい言葉が聞きたいのです。ご高齢の方の前向きな言葉を聞いて若い人も元気が出て力が湧いてくるのです。

○４章７節に「私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです」とあります。土の器は壊れやすいです。衰えていく土の器のわが身は、いわゆる「外なる人」と呼ばれるものです。でも、そんな私たちを神さまが愛してくださって、この土の器に宝を盛り込んでくださいました。この宝とは何か。

日野原重明さんは人間に与えられた宝として「ものを考える力」と「何かを創造する、創り出す能力」を挙げています。もちろん、人間に与えられた宝とはイエス・キリストの福音のことだのご存じの上でそう言うておられるのです。教会生活を送る私の楽しみの一つは、そのような形で盛られている宝が、皆様お一人お一人の中に輝いている、そこに神様の栄光を見させていただくことです。

○お互いに弱さを抱えつつも、霊に燃やされて歩んでいきましょう。それぞれのお身体に盛られている主の宝によって、神様の栄光を帰する生き方へと導かれて参りましょう。今後ともお一人お一人のご健康が支えられ、主の御祝福が満ち溢れますよう心からお祈り申し上げます。